

【サービス業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

運輸附帯サービス業	景況は改善が見られない。希望的観測はあるものの安心はできない。円安の影響は仕入値の上昇を伴っている。顕著な変化はないものの静観というところか。業種による偏りがあるような気がする。人材の不足は感じていない。
建築設計業	景況感はあまり変わりません。民間案件の減少を官庁案件の増加でカバーしている感じですが。今まで多かった耐震診断・補強設計業務が落ち着いたようです。
建築設計業	設備投資は機器等を含め随時行っていますが、企業としての余裕が賃金まで波及できないのが現状であります。
建築設計業	昨年同様、公共事業の発注量減少が従前より下げ止まったように感じられる。年度末を控え、次年度に跨る事業の発注が見られ、継続性をもった事業の推進が見られる。通常、年度初めは事業発注が無いことを鑑みると、企業にとっては大変有難い傾向である。今後、更なる発注増を期待するところである。
旅館・ホテル	千葉市の一層の発展を望みます。
専門料理店	輸入卸と飲食店経営をしていますが、急激な円安による悪影響を受けています。輸入原価の上昇があまりにも急で、値上げの対策が間に合わず、それまでの利益が吹き飛んでしまいました。レストラン業においても原材料の値上がりが続き、客数と売上が増加しているにも拘らず利益が伸びていない状態です。全体としては売上増も、利益はマイナスです。
美容業	従業員の不足が続く美容業界だが、それに伴い賃金は上昇しており、引っ張り合いの状況。そのため求人をあきらめた同業者の話もよく聞く。
美容業	あまりにも長期に渡って景気が悪い状況です。マスメディア等で報道されている景気上昇は一体どこの国の話でしょうか？
機械修理業	中古建機は供給不足で値上がり気味。新車販売顕著にて下取り中古車が市場に少しずつ出ている様子あり。震災需要は一段落の様子。国内・海外共に供給不足にて高値がついている様子あり。
ビルメンテナンス業	従業員募集広告を出しても応募がなく、人の確保が難しくなっている。